

第三者意見

シチズングループは、その企業名称が語るように「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念を掲げています。25周年を迎えた「シチズン・オブ・ザ・イヤー」の継続的な取り組み、女性向けブランド商品と国際NGOの途上国の女の子・女性支援とのマーケティングでの連動は、その理念を反映する特徴的な取り組みということが理解できます。

また、お客様時計相談室の取り組みについて、顧客からの「ありがとう」メッセージが年間1,000件を超えたことが報告されていますが、これは市民目線を大切にしているひとつの成果といえるかもしれません。

本報告書では、価値創造やCSVがひとつの中心的なテーマとして取り上げられています。ブランド力を軸としたビジネスモデルによる企業価値の創造については、一定の訴求力があります。一方、CSV(共有価値ないし共通価値の創造)の本来的な意義は、解消されていない社会課題に対してビジネスプロセスを用いて、解決のアプローチをすることにあります。障がい者福祉センターとの事業連携は、その一例となりえるかもしれませんが、意識的なものかどうか、必ずしも明確ではありません。市民目線を生かしたシチズンらしい形で社会課題にアプローチし、より明確な形で共有価値を創造する今後の展開が期待されます。

本報告書で特筆すべきことは、中国生産拠点の解散の経緯に対する反省が、トップ自らのメッセージで率直に語られている点です。今後、「真のグローバル企業を目指す」観点からは、この事例のように、ビジネス判断が社会や環境にインパクトを及ぼす局面にますます直面することになると考えられます。また、社員の企業倫理相談窓口に対する意識調査の結果も、社員が正確に相談窓口の

ロイドレジスター
クオリティ アシュアランス リミテッド
事業開発部門長

富田 秀実氏



役割を理解しているのか、やや懸念が残ります。多様なリスクに直面しうるグローバル企業のリスク対応の観点から、必ずしも安心のできる結果ではないと思われれます。

この報告書では、ISO26000の7つの中核主題に添った形で開示が行われていますが、上記のリスクの観点からは、既存の活動を整理するだけではなく、包括的な社会的責任についてのガイドであるISO26000や「国連ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく分析やシチズングループとして取り組むべき優先課題を精査することは有用と考えられます。さらに、その結果に基づき、気候変動や人権リスクなど社会環境的な側面を、経営戦略や事業継続計画(BCP)に、積極的に反映させることが必要と考えられます。

また、グローバル企業にとっては、情報開示の充実も強く求められる側面です。海外投資家はもとより、日本版スチュワードシップコードの導入により、国内でもESG(環境・社会・ガバナンス)投資に対する関心が急速に高まっています。情報開示においてCDP、GRIなどの国際的イニシアティブへのより積極的な対応を行い、ステークホルダーから「100年先も継続する企業」にふさわしい評価を得られるような着実な取り組みを期待します。

第三者意見を受けて

貴重なご意見をいただき有り難うございます。

「真のグローバル企業」を目指す当社にとって、たいへん示唆に富んだご指摘をいただきましたことに感謝申し上げます。

中長期的に成長するためにも本業での社会課題の解決や社会への貢献がより一層求められる中、ESGへの対応並びにその情報開示の充実など、取り組むべき課題は山積していると認識しております。

「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念のもと、ステークホルダーの皆さまにより信頼をいただける企業グループとなるよう努力してまいります。



シチズンホールディングス
CSR室 室長

鈴木 順一